

第8回 東金市外三市町清掃組合新ごみ処理施設処理方式検討委員会 会議録

<開催日時>

平成31年2月8日(金)午後2時から午後4時30分まで

<開催場所>

東金市外三市町清掃組合2階小会議室

<出席者>

○新ごみ処理施設処理方式検討委員会

荒井委員長

藤原委員

※出口副委員長は職務上の都合により欠席

○事務局

東金市外三市町清掃組合

二井事務局長、小川総務課長、片岡計画係長、根本主査、日暮副主査、北田主事

○パシフィックコンサルタンツ株式会社

篠木技師、本庄技師

<会議内容>

1. 開会

2. 議事

(1) 二次選定について

3. その他

4. 閉会

<議事概要>

2. 議事

(1) 二次選定について

・二次選定の結果、焼却施設のストーカ式、流動床式、ガス化施設のシャフト式、流動床式、焼却+灰溶融施設のストーカ+灰溶融、流動床+灰溶融、ごみメタン化+焼却施設の7方式のうち、ストーカ式が選定された。

【以下主な質疑・意見】

(1) 二次選定について

<事務局> 二次選定について、今回プラントメーカー及び副生成物処分業者にヒアリングを実施いたしましたが、プラントメーカーへのヒアリングについて、全てのごみ処理方式の回答を得られなかったことから、一部の処理方式については、廃棄物関連の文献を活用し評価を行っております。

ただし、近年の技術革新に鑑み、文献の値をそのまま使用するのではなく、回答が得られたごみ処理方式のヒアリング値と文献上の値との比率を算出し、値を補正したうえで、評価を行っております。

<委員> 了解した。補正した値の設定方法については、文言だけではなく数式等も明記した方が良い。

<事務局> 了解しました。

<委員> メタン+燃焼について、資料中のメタン発酵槽の規模の設定根拠を教えてください。

<事務局> 本組合のごみ質及びヒアリング結果をもとに、50 t/日と設定いたしました。

<委員> ごみ質への対応可否の評価について、災害廃棄物処理など、平常時とごみ質が大きく変わる場合は各処理方式で差が発生するが、本組合のごみ質の提示条件であれば全処理方式で処理が可能と考えられる。そのため、評価は全てC評価とすることが望ましい。

<事務局> 了解しました。

<委員> 資料中『「シャフト式」、「ガス化流動床式」は、機器点検数が「流動床式」と同等程度』とあるが、「従来方式より点数が多い」等の表現にした方が良いのではないかと。

また、シャフト式とガス化流動床式では熔融温度が異なるため、両方式ともに「炉内温度が1300度」という表現をしている部分は適切な表現に修正した方が良い。

<事務局> 了解しました。

<委員> 建設実績数について、2009年以降の実績に絞ったのは、ダイオキシン類対策特別特措法が施行された年度に合わせているという背景があると思う。その一文を追加した方が良い。

<事務局> 了解しました。

<委員> 本日の協議をもとに、7種類の処理方式の内、「ストーカ式」を第1位としたいがよろしいか。

<委員> 異議なし。

<委員> それでは、新ごみ処理施設に最適な処理方式については「ストーカ式」を選定する。

### 3. その他

・第9回処理方式検討委員会について、2月22日午後2時から開催することを確認する。

・第10回処理方式検討委員会について、2月28日午後2時から開催することを確認する。

### 4. 閉会